風速の成因別極値解析

Extreme Wind Speeds Analysis in Mixed Wind Climates in Japan

宮田 利雄^{*}
Toshio MIYATA

ここに示す資料は、日本における強風の成因別年最大風速値について極値解析したもので、すでに1980年11月の第6回風工学シンポジウムにおいて発表した右記の論文^{**}に掲載し得た12地点を含む35地点の気象官署の分を掲載してある。残る120余地点についても機会が得られれば掲載してゆきたいと考えている。

この解析は、日本における強風の成因を台風、低気圧・前線性の風、季節風の三種類に分類できるとして、それぞれの成因による年最大風速値を抽出し、これに二重指数分布をあてはめて行っている。以下の図では、各成因ごとの再現期間R年に対する再現期待風速値 $V(m/s)$ を読みとれるようにしている。図中のMixedは成因別に考えない従来どおりの年最大風速値によるものを意味し、いずれの地点についても、Typhoon（台風）、Low Pre.（低気圧・前線性の風）、Kisetsu（季節風）の各成因別の年最大値の中の最大値がこれに相当している。

解析対象年は1951年以降1978年までとし、観測法や測器の変更、測器高度、位値の変更などによる不均質性を従来の調査研究による方法にしたがって補正している。また、地上10m高さにおける風速値（10分間平均）に換算している。ここに掲載した気象官署は以下のとおりである。

稚内、旭川、帯広、根室、江差、室蘭、青森、秋田、宮古、福島、新潟、富山、輪島、東京、横浜、勝浦、大島、静岡、伊良湖、舞鶴、鳥取、浜田、大阪、姫路、潮岬、下関、高松、松山、高知、足摺、大分、佐世保、長崎、熊本、鹿児島

解析方法、目的などについては下記の論文を参照していただきたい。

^{**} 風速の成因別再現期待値に関する一評価、
第6回風工学シンポジウム論文集、
PP. 373～380, 1980年11月
（宮田利雄、吉津洋一）

* 横浜国立大学教授、工学部土木工学科

Professor. Yokohama National Univ., Dept. of Civil Engineering

宮古

福島

新潟

富山

輪 島

東 京

横 浜

勝 浦

鳥 取

浜 田

大 阪

姫 路

長 崎

熊 本

鹿 児 島